

今回協議に関する基礎資料

- 基礎資料 1 山形県・山形市 新スポーツ施設整備の共同での検討に係る基本的な考え方に関する合意について（令和6年10月）
- 基礎資料 2 屋内スケート施設あり方検討会議報告書（検討結果）の概要（令和5年3月）
- 基礎資料 3 FLAT HACHINOHEの体育館利用例

山形県・山形市

新スポーツ施設整備の共同での検討に係る基本的な考え方に関する合意について

◇背景

- 県では、令和4年度から屋内スケート施設について段階的に検討を進め、「多くの方から利用される多機能性」や「村山地域都市部が望ましい」などのある程度の方向性が見えてきた
- 令和12年度を目途に撤去を予定している体育館・武道館に係る山形市の要望を受けて、今年度、県と市の担当部局が幅広い視点から検討を進めてきた

⇒知事と市長が直接話し合い、

現下の厳しい財政状況や山積する行政課題を踏まえながら、県民・市民のウェルビーイングの向上を目指して、県と市が連携・協力して、より効率的・効果的に新たなスポーツ施設の検討を進めていく必要性を共有

◇合意の概要

山形県：多機能性を有する屋内スケート施設

山形市：体育館・武道館機能を有する地域住民のためのスポーツ施設

➡ 両施設の検討について、相乗効果の発揮を目指して共同で進める

◇検討の方針

- ・新施設を整備した場合の効果の早期発現、現在の体育館・武道館の利用者が、その撤去に伴い利用できなくなることを見据え、可能な限り早期に進める
- ・県・市共同で有識者や地域の関係者の意見も踏まえながら検討を進める

屋内スケート施設あり方検討会議報告書（検討結果）の概要

令和5年3月

1 背景

- 老若男女を問わず誰もが、生涯を通して気軽にスポーツに親しめる環境の充実は、県民の健康増進にも寄与するとともに、地域の活性化や若者・女性の県内定着・回帰にもつながる
- 本県は、民間の屋内スケート施設が閉鎖（H29）して以降、東日本で唯一フィギュアスケートやアイスホッケーの公式大会を開催できない状況にある（関係競技団体からは施設整備の要望）
- 一方で、人口減少の加速や県の厳しい財政状況も踏まえる必要があり、本県における屋内スケート施設の「あり方」についての検討が必要

2 検討結果

〔1〕期待される効果

- ① 県民の幸せの向上、健康増進
 - ・ 県民の幸福度（ウェルビーイング）の向上、子どもたちの夢の実現や運動能力の向上・スポーツへの関心の醸成、健康増進への寄与
- ② 地方創生、若者・女性の定着・回帰
 - ・ 地域への肯定感・郷土愛の醸成、若者・女性の活躍の可能性の拡大、交流人口の拡大による地域の活性化
- ③ 競技力の向上
 - ・ 競技機会の拡大、競技人口の裾野の拡大
- ④ 共生社会の実現
 - ・ 年齢、性別、障がいの有無等に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、様々な立場・状況の人とともにスポーツを楽しむ機会の充実

〔2〕整備・運営における課題

- ① 利用者の確保
 - ・ 本県の人口規模や人口減少の状況、競技人口数、若者のスポーツ離れ等を背景にスケート利用者のみでの運営は厳しい見込み
 - ・ より多くの方の多様なシーンでの利用が必要
- ② 財政負担の抑制
 - ・ 製氷・整氷など特有の機能・設備に係る整備・運営コストの増嵩
 - ・ 全体コストの縮減や外部財源の活用（民間資金を組み合わせた多様な資金調達）など、様々な負担軽減策が必要
- ③ 官民連携の推進
 - ・ 製氷・整氷の専門的な知見・技術が求められ、民間のノウハウや創意工夫の活用が不可欠
 - ・ 行政と民間の最適な分担による連携効果の最大化が必要

〔3〕本県における屋内スケート施設のあり方（考え方）

- （1） 基本的な考え方 ～持続可能な施設を目指して～
 - ・ 県民のウェルビーイング向上につながり、特に、本県の子どもの未来のためになる施設
 - ・ スケート以外にも、より多くの方から有効に活用いただける多機能性
 - ・ 民間活力を活かした官民連携による柔軟かつ効率的な整備・運営
- （2） 具体的事項
 - ① 多機能性
県民ニーズに基づき、多くの方の多目的な利用を実現（多機能性≠オールマイティ）
 - ② アクセシビリティ（立地）
自家用車及び公共交通機関等の利便性に加え、施設の性格や事業性、利活用の幅などを踏まえた立地を慎重に検討（財政負担抑制の観点から、既存の公有地の利用を前提）
 - ③ SDGsの視点
ア. ユニバーサルデザイン：年齢、性別、障がいの有無等に関わらない「優しい施設」
イ. 環境負荷の低減：製氷に係る水や電気の利用の省力化・効率化
ウ. デジタル技術の活用：施設の管理・運営の効率性や利用者の利便性向上に向けた通信環境やITシステムの整備等

（3） 想定される設置パターン

【パターンA】

- ・ リンクの上に断熱フロアを設置し、随時転換によりスケート以外にも利用可能とする施設
（参考：FLAT HACHINOHE）



施設外観



スケート利用時



イベント利用時

【パターンB】

- ・ 季節により解氷し、スケート以外にも利用可能とする施設
（参考：磐梯熱海アイスアリーナ）



施設外観



スケート利用時



イベント利用時

3 今後の進め方

- 今後、県が、今回の検討結果を踏まえて、立地場所や官民連携の手法など、効率的・効果的な整備・運営の実現に向け、具体的な検討を進めていく
 - ✓ 事業費や収支のシミュレーション、経済波及効果の試算など、民間のマーケティングの視点を取り入れた調査が重要
 - ✓ 整備に向けた過程において、調査・分析の結果等を県民に丁寧に説明しながら進めていくことが重要
 - ✓ 県と関係団体等が十分に連携を図り、より実効性の高い利用者確保策を検討し、施設の利活用のビジョンを示していくことが重要

FLAT HACHINOHE の体育館利用例

1 バスケットボール（コート1面）での利用



※バレーボールコートは1面設置可

2 3人制バスケットボール（コート3面）での利用



3 eスポーツイベントでの利用

